

資料

## 三重県独自の調査様式による 性感染症サーベイランス結果 (2018年)

岩出義人, 原 康之, 山内昭則, 樋口奈津子

キーワード: 性感染症, サーベイランス, 無症状病原体保有者, パートナー検診, 咽頭感染

### はじめに

性感染症は感染しても無症状や軽症にとどまる場合が多く, 自覚症状がある場合でも医療機関を受診しないことがある (性感染症に関する特定感染症予防指針<sup>1)</sup>) ため, 感染の実態を把握することが困難となっている。また, 感染症法に基づく発生動向調査で把握される全国の報告数は全体的に減少傾向がみられるものの, 依然として十代半ばから二十代にかけての若年層における発

生の割合が高いことに加え, 性行動の多様化により咽頭感染などの増加が懸念され, 対策の必要性が指摘されている。しかし, 現行の発生動向調査による性感染症サーベイランスでは, 無症状病原体保有者, 咽頭感染, 混合感染などを把握することはできない。このことから, 三重県では, 独自の調査様式による性感染症サーベイランスを2012年1月から開始した。以下に, 2018年の概要を報告する。

表1. 三重県独自の性感染症4疾患患者報告様式

別記様式7-4

感染症発生動向調査 (STD定点) 平成 年 月分

月 報

医療機関名		総受診者数 人	検査件数 件	性感染症の患者を診断されなかった場合は、□にレ点を記入し、報告をお願いします。 報告例なし □				次の項目で該当するものがあれば番号に○を付けてください。											
				クラミジア 梅毒	淋菌 HIV	性器ヘルペス ウイルス 感染症 (再感染届出不要)	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症 注1)検査陽性例 性器・眼 咽頭	①その他の疾患 注2) 1. 腸トリコモナス症 2. 卵型肝炎 3. 梅毒 4. HIV感染症/AIDS 5. その他( )	②受診契機 1. 有症状 2. パートナーが有症状 3. 妊婦健診 4. 人工妊娠中絶 5. キット等自己検査陽性 6. 不妊治療 7. その他( )	③その他の状況 1. 異性間的接触 2. 同性間的接触 3. コーヤルセックスカー 4. " " との接触 5. コンドーム不使用 6. パートナーが複数								
患者番号	性 男女	年齢	配偶者 有 無	国籍 日本 外国	住所	疾患名 (該当する欄に有症状は○を、無症状は□にレ点を記入してください。)	クラミジア感染症 注1)検査陽性例 性器・血清 咽頭	性器ヘルペス ウイルス 感染症 (再感染届出不要)	尖圭コンジ ローマ	淋菌感染症 注1)検査陽性例 性器・眼 咽頭	①その他の疾患 注2) 1. 腸トリコモナス症 2. 卵型肝炎 3. 梅毒 4. HIV感染症/AIDS 5. その他( )	②受診契機 1. 有症状 2. パートナーが有症状 3. 妊婦健診 4. 人工妊娠中絶 5. キット等自己検査陽性 6. 不妊治療 7. その他( )	③その他の状況 1. 異性間的接触 2. 同性間的接触 3. コーヤルセックスカー 4. " " との接触 5. コンドーム不使用 6. パートナーが複数						
1	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
2	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
3	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
4	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
5	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
6	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
7	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
8	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
9	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
0	男 女		有 無	日本 外国		無症状 □ 無症状 □			無症状 □ 無症状 □	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6							
特記事項 (特徴的な事例、患者に関する特記事項等があれば、ご記入ください。)																			

注1) クラミジア感染症、淋菌感染症について  
●報告は、届出基準にある臨床的特徴を有し、かつ下記の検査陽性の患者の他、無症状の患者も届出をお願いします。  
●クラミジア感染症: 次の①の①～③、②の①～②のいずれかに該当する検査所見を認めるもの  
①検査材料が尿遠、性器から採取した材料の場合、又は咽頭ぬぐい液の場合  
①分離・同定による病原体の検出 ②蛍光抗体法又は酵素抗体法による病原体抗原の検出 ③PCR法による病原体遺伝子の検出  
②検査材料が血清の場合  
①ペーパー血清による抗体陽転又は抗体価の有意の上昇 ②単一血清で抗体価の高値  
●淋菌感染症: 尿道、性器から採取した材料、眼分泌物、咽頭拭い液で次の①～⑤のいずれかに該当する検査所見を認めるもの  
①分離・同定による病原体の検出 ②鏡検による病原体の検出 ③蛍光抗体法による病原体の検出 ④酵素抗体法による病原体抗原の検出 ⑤PCR法による病原体遺伝子の検出

注2) 後天性免疫不全症候群および梅毒は5種類感染症全数把握疾患に定められており、患者及び無症状病原体保有者を診断した医師は7日以内に最寄りの保健所に届け出ることになっています。

注3) 用紙が不足する場合は2枚目にご記入をお願いします。

表 2. 三重県独自の調査様式による STD 定点患者情報 (2018 年)

疾患名	性	年齢階級別患者数														受診契機						その他の状況										
		0 9	10 14	15 19	20 24	25 29	30 34	35 39	40 44	45 49	50 54	55 59	60 64	65 69	70 以上	計	有 症 状	パ ー ト ナ ー が 有 症 状	妊 婦 健 診	人 工 妊 娠 中 絶	自 己 検 査 陽 性	不 妊 治 療	そ の 他	性 異 性 的 接 触	同 性 性 的 接 触	C S W	C S W と の 接 触	不 使 用 ド ー ム	バ ー ト ナ ー が 複 数			
有 症 状	性器クラミジア感染症	男			1	15	6	10	7	5	7	2	2	2	1	58	46	2							24	1		22	26			
	性器クラミジア感染症	女			22	36	18	2	6	2	1					87	69	6	7	2		4		67		1				1		
	咽頭クラミジア感染症	男														0																
	性器ヘルペスウイルス感染症	男				1				2	1					4												2	3			
	性器ヘルペスウイルス感染症	女			1	6	5	8	5	3	3	2	3		37	35						1		1								
	尖圭コンジローマ	男			1	1	1	1	8	3	2			1	1	18	17											2	2	1		
無 症 状	淋菌感染症(咽頭を除く)	男			1	9	4	5	3	2	10	1		36	32												17	13				
	淋菌感染症(咽頭)	女			1			1							2	2																
	性器クラミジア感染症	男								1	1				3																	
	性器クラミジア感染症	女			10	28	35	19	11	4	1				108	4	14	51	10			20	7	3					4			
	咽頭クラミジア感染症	男													0																	
	淋菌感染症(咽頭を除く)	女									1				1	1																
再 掲	性器クラミジア(有症状)/その他	女													1	1																
	性器クラミジア(有症状)/性器ヘルペス	女			1										1	1																
	性器クラミジア(有症状)/尖圭コンジローマ	女													1	1																
	性器クラミジア(有症状)/梅毒	女													1	1																
	性器クラミジア(有症状)/淋菌(有症状)	女													1	1																
	性器クラミジア(有症状)/淋菌(有症状)/臍トリコモナス	男			1	2	1			3				1	8	8											2	6	4			
	性器クラミジア(有症状)/臍トリコモナス	女			1										1	1																
	性器クラミジア(有症状)/梅毒	女			1	3									4	4																
	性器ヘルペス/梅毒	女													1	1																
	性器クラミジア(無症状)/梅毒	女													1																	
	性器クラミジア(無症状)/淋菌(無症状)	女													1																	
	性器クラミジア(無症状)/その他	女													2																	
	その他の疾患	男														3	2															
	その他の疾患	女			2	4	4	3	2	1						16	11		3									1		1		

定点数:泌尿器科6定点, 皮膚科3定点, 産婦人科8定点の計17定点. CSW:性風俗産業従事者  
「受診契機」及び「その他の状況」は無回答または複数回答を含むため患者数と一致しない。

## 方 法

調査の対象として性感染症 (Sexually Transmitted Infection:以下, STI) の 4 疾患患者情報を, 17 医療機関 (泌尿器科 6, 皮膚科 3, 産婦人科 8:以下, STD (Sexually Transmitted Diseases) 定点医療機関) に依頼した。

報告様式は, 国の報告様式にはない調査項目 (医療機関の受診者総数, STI 関連検査件数, 患者毎に性, 年齢, 配偶者の有無, 国籍, 住居地, 疾患名 (性器クラミジア感染症と淋菌感染症は無症状, 咽頭感染の項目を追加), その他の感染症 (臍トリコモナス症等), 受診の契機 (パートナーが有症状, 妊婦健診等), その他の状況 (性風俗産業従事者 (Commercial Sex Worker:以下, CSW) との接触等) を追加した県独自の様式 (表 1) を使用し, 調査を行った。

## 結 果

### 1. STD 定点患者・感染者情報

#### 1) クラミジア感染症

性器クラミジア感染症の報告数は, 有症状: 男 58

人, 女 87 人, 無症状: 男 3 人, 女 108 人と, 有症状, 無症状を合わせた STI 疾患感染者数の中で最も多かった。男女とも咽頭クラミジア感染症の報告はなかった。

男性は 20 から 30 代が多く, 女性は 10 代後半から 20 代が多かった。また受診契機は, 男女とも「有症状」が多く, 女性の無症状感染者では, 「妊婦健診」が多かった。その他の状況で, 有症状の男性 58 人中 22 人 (37.9%) は, 「CSW との接触」があった。(表 2)。

女性の症状の有無別の患者数を図 1 に示した。20 代後半から 40 代前半で, 無症状患者数が有症状患者数を上回っていた。

#### 2) 性器ヘルペス感染症

報告数は, 男 4 人, 女 37 人で, 年齢階級別で, 女性は 10 代後半から 60 代後半まで幅広く報告があった (表 2)。

#### 3) 尖圭コンジローマ

報告数は, 男 18 人, 女 5 人で, 年齢階級別では, 男性は 20 代前半から 60 代前半まで広い範囲で報告があった (表 2)。

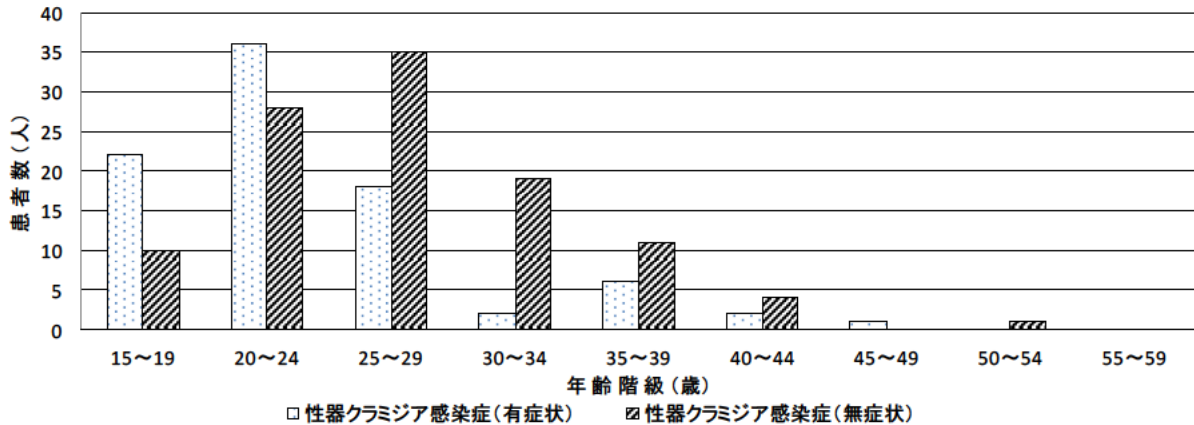


図1. 性器クラミジア感染症における有症状者と無症状者の年齢階級別患者数（女性）

#### 4) 淋菌

報告数は、有症状：男 36 人，女 2 人，無症状：男 1 人，女 3 人で、全て咽頭以外であった。年齢階級別では、男性は 20 代前半と 40 代後半からの報告が多く、60 代後半からも 1 人の報告があった。女性は 20 代前半が多かった。また、受診契機は、男性は「有症状」、女性は「有症状」または「パートナーが有症状」が多かった。

男性の患者 36 人のうち 17 人が CSW との接触歴があり（図 2）、特に 20 代後半から 40 代前半にその割合が高かった。女性の無症状淋菌 2 人の受診契機はパートナーが有症状であった。（表 2）

#### 5) その他報告された感染症

男性では梅毒 2 人，女性では膣トリコモナス症が 9 人，B 型肝炎 3 人，梅毒 3 人の報告があった。

#### 6) 混合感染

男は全て性器クラミジア（有症状）・淋菌（有症状）の混合感染で、報告数は 8 人であった。女は混合感染の組み合わせが 9 通りあり、最も多か

ったのは報告数 4 人の性器クラミジア（有症状）・膣トリコモナス、次いで報告数 2 人の性器クラミジア（無症状）・淋菌（無症状）で、その他の組み合わせはそれぞれ 1 人であった。また、3 疾患の混合感染が 1 人あり、疾患は性器クラミジア（有症状）・淋菌（有症状）・膣トリコモナスであった（表 2）。

#### 2. 各診療科別患者・感染者報告数及び検査件数

各診療科別に報告された患者・感染者数及び実施された検査件数を表 3 に示した。クラミジアに比べて淋菌の検査件数は少なく、特に、産婦人科における淋菌の検査件数はクラミジアの 1/10 以下にとどまった。

#### まとめ

三重県独自の調査様式によるサーベイランスの結果として、男性の感染経路として「CSW との接触」が 1/3 近くを占め、感染拡大が危惧されること、女性は、「妊婦健診」や「不妊治療」等を

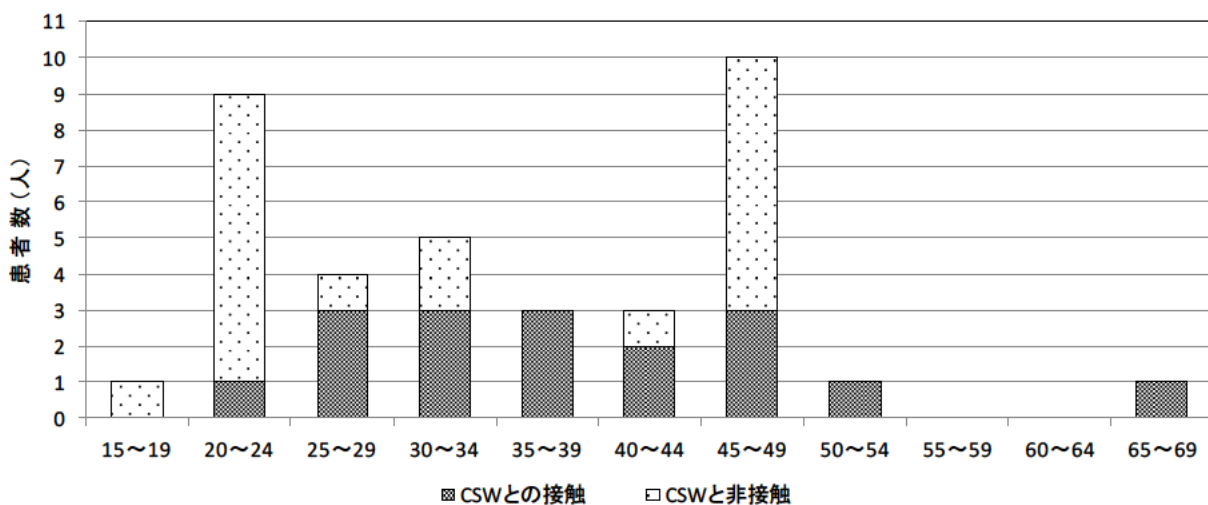


図2. 淋菌感染症の年齢階級別患者数（男性）

表 3. STD 定点サーベイランスによる診療科別患者数および検査数 (2018 年)

標榜科区分	患者総数		検査項目	検査件数	患者報告数	
	男性	女性			有症状	無症状
泌尿器科 (6 定点)	105	0	クラミジア	607	58	3
			淋菌	211	36	3
			梅毒	9600	0	
			HIV	4396	0	
産婦人科 (8 定点)	0	244	クラミジア	3267	87	108
			淋菌	309	2	3
			梅毒	3328	3	
			HIV	3327	0	
皮膚科 (3 定点)	10	0	クラミジア	0	0	0
			淋菌	0	0	0
			梅毒	6	2	
			HIV	1	0	

検査件数は妊婦健診, 不妊治療, 手術前検査の件数を含む, 各定点医療機関から月報として報告された件数の合計.

契機として, 多数の無症状クラミジア感染を把握できたこと, 男性の無症状のクラミジア感染者や, 女性の無症状の淋菌感染者は「パートナーが有症状」であることを契機に受診しており, パートナー検診の重要性が再確認<sup>2)</sup>できたことなどが挙げられる.

一方, 女性の淋菌感染報告は少数であったが, 妊婦健診で検査費用の公費負担が得られるクラミジアと異なり, 淋菌検査は公費負担の検査項目にないため, 検査未実施による多数の感染者が潜在することが考えられたこと, 性行動の多様化により, 淋菌, クラミジアともに咽頭を介した感染例の増加が指摘されている<sup>3~4)</sup>. 三重県における咽頭感染の報告は, 2015 年はクラミジア無症状で 2 例, 2016 年ではクラミジア無症状で 1 例, 淋菌無症状で 3 例と少なく, このことも検査未実施に起因するものと考えられ, 今後の課題である.

また, 多数の無症状クラミジア感染を把握することができたが, 医療機関受診の動機を持たない若年層では無症状や軽症の感染者であることから多数潜在化していると思われ, 医療機関からの報告とは別途, 何らかの把握をするための対策が必要となること, 「パートナーが有症状」を契機に受診して感染が確認された者はまだ少数に止まっており, 医療機関などにおいてパートナー検診の積極的な勧奨が必要であること, その他の感

染症で非淋菌性, 非クラミジア性尿道炎や子宮頸管炎の原因微生物として関心が高まっている *Mycoplasma genitalium* や *Ureaplasma urealyticum* の感染報告<sup>5)</sup>が認められなかったことなど, 新たな課題も明らかとなった.

#### 文 献

- 1) 2012 年 1 月 19 日付 健感発 0119 第 1 号健康局結核感染症課長通知「性感染症に関する特定感染症予防指針の一部改正について」.
- 2) 山内昭則, 高橋裕明, 福田美和, 大熊和行: 三重県における 2007~2009 年度の全数サーベイランスによる性器クラミジア感染症, 性器ヘルペス感染症, 尖圭コンジローマおよび淋菌感染症の発生状況と今後の課題, 日本性感染症学会誌, **22**(1), 73-88(2011).
- 3) 感染症 診断・治療ガイドライン 2011, 日本性感染症学会誌, **22**(1), supplement, 10,36-39(2011).
- 4) 余田敬子: 特集 性感染症 診断・治療ガイドライン 2011 を読んで, 淋菌の咽頭感染, クラミジアの咽頭感染に関する更新, 改訂について, 泌尿器外科, **25**, 1783-1787, (2012).
- 5) 伊藤 晋: 泌尿器科の立場から 尿道炎の治療戦略, 日本性感染症学会誌, **24**(2), 47(2013).